

2026年度 総合仏教研究所 特別講座

仏とその環境を考える

— 現世穢土での造作を通じて —

講師 **神居 文彰** 先生
(平等院ミュージアム鳳翔館 館長)

本研究所では特別講座に神居文彰先生をお迎えし、下記の日程で講義を開催いたします。どなたでも聴講できますので、ふるってご参加ください。(聴講無料・予約不要)

[時間] **13:20~15:00**(3時限目) / [場所] 総合仏教研究所 研究室1(3号館4階)

- | | | |
|-------|-----------|--------------------------------|
| 第1回目 | 5月19日(火) | 石造と金属器からの追究 |
| 第2回目 | 5月26日(火) | 民俗資料から読み解く信仰の一端 |
| 第3回目 | 6月16日(火) | 神祇と浄土教文化 |
| 第4回目 | 7月 7日(火) | 災害と宗教 |
| 第5回目 | 9月29日(火) | 浄土教表現の諸相① —天然記念物から— |
| 第6回目 | 10月 6日(火) | 浄土教表現の諸相② —建造物の問題— |
| 第7回目 | 11月10日(火) | 浄土教表現の諸相③
—仏像と絵画の転義、祈りと美術?— |
| 第8回目 | 11月17日(火) | 仏土の空間的理解 |
| 第9回目 | 12月 8日(火) | 芸能と仏教
—文化と遺産の変質、観光化とファッション— |
| 第10回目 | 1月12日(火) | 物語絵と浄土教 —紙本と絹本についても— |

【講義概要】

仏教を学ぶということと信じていくという行為を、現存する「もの」史料を活用し、信じ学ぶための新しい視座を呈したい。

例えば、一遍の賦算による念仏札は江戸末では百枚集めて表装懸架が流行するという信仰と民俗の一端、六字名号が惣道場本尊化することと本山との接続関係を構築した側面、来迎図の伝法での使用、仏堂における金属工芸のロストテクノロジー、民俗資料による寺院や参詣の実体に触れるなど様々な側面から一般に分かり易くなるべくテクニカルターム(専門語)を使用しない100分としたい。

私が30年以上護った平等院は日本で国宝が最も集積した空間と云われるが、未発表資料も多く活用する。

【問い合わせ先】 大正大学総合仏教研究所 03-3918-7311(代表)

https://www.tais.ac.jp/library_lab/sobutsu/

※日程等に変更が生じた場合は、随時、上記HP上にてご案内いたします。